

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
文化人類学	1	30	1 学年後期	菊地 達夫
科目のねらい <ul style="list-style-type: none"> <li>● 文化人類学の概要、主たる研究方法について理解できる</li> <li>● 環境・地域・社会との文化的多様性のあり方について理解できる</li> <li>● 文化人類学を通じた個人と文化の関係性について理解できる</li> <li>● 観光と文化の関係性（観光人類学の内容）について理解できる</li> </ul> 本科目では、具体的事例としてアイヌ民族・文化の内容を多用する				
教科書 : 使用しない（必要に応じて、資料を配付する） 参考文献 : 波平恵美子編『文化人類学』医学書院 E.A.シュルツ/R.H.ラヴェンダ『文化人類学Ⅰ・Ⅱ』古今書院 山下晋司編『観光人類学』新曜社				
評価方法 : 最終試験（50%）、作業課題の内容（30%）、受講態度・参加意欲（20%） 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 授業は、学習課題の提示、作業学習（問題解決型学習・グループ学習）、発表共有、解説・説明などを組み合わせてすすめる。とりわけ、配付資料からの読み取り・意見提出、学習課題に対する自分の考えといった思考判断を重視する				

#### 授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	オリエンテーション	科目の到達目標、授業展開、評価方法等について理解できる	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・到達目標の内容</li> <li>・授業内容の構成</li> <li>・評価方法の内容と割合</li> </ul>	講義
2	文化人類学とは	文化人類学は、どのようなことを学ぶのか、理解できる	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化人類学の誕生</li> <li>・文化の諸相</li> <li>・隣接分野（地理学・民俗学等）</li> </ul>	作業 講義
3	フィールドワーク	文化人類学におけるフィールドワークの内容について理解できる	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークの意義</li> <li>・フィールドワークの方法</li> <li>・フィールドワークの課題</li> </ul>	作業 講義
4	地域環境	地域環境とりわけ自然環境と文化の関係性について理解できる	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境が影響を与える文化形成・変化の内容</li> </ul>	作業 講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
5	地域社会	地域社会と文化の関係性について理解できる	2	・地域社会が影響を与える文化形成・変化の内容	作業 講義
6	社会組織	国家(社会組織)と文化の関係性について理解できる	2	・国家が影響を与える文化形成・変化の内容	作業 講義
7	生業形態	生業形態と文化の関係性について理解できる	2	・アイヌ民族の生業形態の特色	作業 講義
8	世界観	世界観と文化の関係性について理解できる	2	・アイヌ民族の世界観の特色	作業 講義
9	言語	言語と文化の関係性について理解できる	2	・アイヌ語地名の意味と地域的広がり関係性	作業 講義
10	通過儀礼	通過儀礼と文化の関係性について理解できる	2	・国内外における通過儀礼の地域的特色	作業 講義
11	健康	健康・医療と文化の関係性について理解できる	2	・地域間比較にみる健康・医療の考え方・捉え方の差異	作業 講義
12	観光と植民地主義	植民地主義と観光文化の関係性について理解できる	2	・植民地主義がもたらす観光文化の成立・変容	作業 講義
13	観光と文化保存	観光と文化保存のあり方について理解できる	2	・アイヌ文化を活用する地域観光の具体例	作業 講義
14	持続可能な観光開発	持続可能な開発と観光のあり方について理解できる	2	・文化遺産の保存・保全と観光開発のバランス	作業 講義
15	まとめと整理	各授業の重点について理解できる	2	・各授業のキーワードの抽出 ・全体を通じての知識理解 ・他科目等への知識の応用	作業
単位修得認定試験			1	最終試験 作業課題の内容 受講態度・参加意欲	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
国語表現法	1	15	1年後期	福田信一
科目のねらい 正しい日本語の理解と文章表現を学び論理的思考の基礎を身につけ、すべての学科の基礎となる国語力、国語表現力を養う				
教科書 : その都度資料配布 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 100% 評価認定単: 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 講義形式で講義テーマについて学習した後、演習形式で実際にグループ等を活用して練習を行います 講義の中でレポートを課すこともあります 筆記試験で評価します				

#### 授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1	日本語とは①②	2	日本語と国語	講義・演習
2	日本語とは③④	2	日本語と国語	講義・演習
3	日本語と位相①②	2	話し言葉と書き言葉	講義・演習
4	日本語の位相③④	2	日本語の語彙	講義・演習
5	表現の実践①②	2	小論文・論文・レポート・報告書の実践・演習	講義・演習
6	表現の実践③④	2	レポートの実践	講義・演習
7	表現の応用①②	2	文章づくり	講義・演習
8	表現の応用③	1	文章づくり	講義・演習
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師		
解剖生理学Ⅳ	1	30	1年後期	山本哲三 永森克志	杉本信志 杉山雅子	前川浩 島村佳一
科目のねらい 生命現象の機序を学び、正常な人体の構造と機能を理解する						
教科書 : 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 参考文献 : 都度紹介						
評価方法 : 筆記試験 100%(山本 15% 杉本 25% 前川 15% 杉山 15% 永森 15% 島村 15%) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする						
授業の進め方 教科書、参考資料 スライドを活用して進めます						
単元：生殖器系	担当講師：山本哲三		単元：脳・神経系	担当講師：杉本 信志		
単元：眼科	担当講師：前川 浩		単元：皮膚科	担当講師：永森 克志		
単元：歯科	担当講師：杉山 雅子		単元：耳鼻科	担当講師：島村 佳一		

#### 授業進度と内容

回数	単元		時間	学習内容	授業形態
1 2	生殖・発生と老化のしくみ 生殖器系		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男性生殖器の構造と機能</li> <li>・女性生殖器の構造と機能</li> <li>・受精と胎児の発生</li> <li>・成長と老化</li> </ul>	講義
3 4 5 6 7	情報の受容と処理 脳・神経系		10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神経系の構造と機能</li> <li>・脊髄と脳</li> <li>・脊髄神経と脳神経</li> <li>・脳の高次機能</li> <li>・運動機能と下行伝道路</li> <li>・感覚機能と上行伝道路</li> </ul>	講義
8 9	感覚器系	眼科	4	目の構造と視覚	講義
10 11		皮膚科	4	皮膚の構造と機能	講義
12 13		耳鼻科	4	耳の構造と聴覚・平衡覚	講義

回数	単 元		時間	学習内容	授業形態
14 15	感覚器系	歯科	4	テーマ:口腔の機能と構造 ・ 歯の構造と各部の名称 ・ 歯式について ・ 歯(永久歯・乳歯)の発生と萌出時期 ・ 唾液腺の種類と特徴 ・ 唾液の働き ・ 咀嚼について ・ う蝕と歯周病について 原因と全身に及ぼす影響 ・ 口臭について ・ ブラッシング	講義
単位修得認定試験				1	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
人の生活と食事	1	15	1年後期	上坂 真智子
科目のねらい 食事療法の意義と方法を学び、健康回復・保持・増進のための食事療法を行う際の基礎的知識・技術を養う				
教科書 : わかりやすい 栄養学 臨床・地域で役立つ食生活指導の実際 (ヌーベルヒロカワ) 参考文献 : 都度紹介				
評価方法 : 筆記試験 (90%)、平常点 (10%) 平素の受講態度等を加味する。 評価認定: 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする。				
授業の進め方 教科書と資料を中心に進める。				

#### 授業進度と内容

回数	単 元	時間	学習内容	授業形態
1	日常生活と栄養 栄養指導の過程 栄養補給法	2	1. 食習慣と栄養 2. 日本人の食事摂取基準 3. スポーツと栄養 4. 栄養指導と食事の調整 5. 経管栄養と中心静脈栄養	講義
2	特定保健指導 食事指導の実際 ・糖尿病	2	1. メタボリックシンドローム 2. 特定保健指導 3. 糖尿病のある患者	講義
3	食事指導の実際 ・高血圧 ・脂質異常症 ・肥満、痛風	2	1. 高血圧のある患者 2. 脂質異常症、肥満、痛風のある患者	講義
4	食事指導の実際 ・虚血性心疾患 ・脳卒中 ・COPD (慢性閉塞性肺疾患)	2	1. 虚血性心疾患のある患者 2. 脳卒中のある患者 3. COPD (慢性閉塞性肺疾患) のある患者	講義
5	食事指導の実際 ・肝炎、肝硬変 ・膵炎、胆石症 ・CKD (慢性腎臓病)	2	1. 肝炎、肝硬変のある患者 2. 膵炎、胆石症のある患者 3. CKD (慢性腎臓病) のある患者	講義

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
6	食事指導の実際 ・潰瘍性大腸炎、クローン病 ・胃切除術後 ・摂食・嚥下障害	2	1. 潰瘍性大腸炎、クローン病のある患者 2. 胃切除術後（周術期）の患者 3. 摂食・嚥下障害のある患者	講義
7	食事指導の実際 ・褥瘡 ・貧血 ・骨粗鬆症 ・食物アレルギー	2	1. 褥瘡のある患者 2. 貧血のある患者 3. 骨粗鬆症のある患者 4. 食物アレルギーのある患者	講義
8	講義のまとめ	1	まとめ	講義
	単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
生活援助技術Ⅲ	1単位	30時間	1年 後期	吉田かつえ 藤原未央 三上麻美
<p>科目目的 : 人間にとっての身体清潔の意義を理解し、看護する際に必要な基礎的知識・技術・態度を身につける</p> <p>目標 : 1. 衣生活、清潔の意義を理解する 2. 衣生活、清潔のアセスメントの方法を理解する 3. 清潔の援助方法を習得する</p>				
<p>教科書 : 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術 メヂカルフレンド社 看護の基本となるもの ヴァージニア・ヘンダーソン 日本看護協会出版会</p> <p>参考文献 : ナーシング・グラフィカ 基礎看護学技術 基礎看護学③ メディカ出版 新体系 看護学全書 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社</p>				
<p>評価方法 : 筆記試験100% (吉田60% 藤原20% 三上20%)</p> <p>評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする</p>				
<p>授業の進め方 : 1. 事前課題を前提に授業を進めます 2. 授業の中で配布された資料は、必ず持参してください 3. 講義、学内実習または演習、リフレクションの流れで進めていきます 4. 学内実習・演習では、学生同士お互いに交代で患者、看護師の役割を体験します 5. 学内実習・演習前には、事前学習をし、お互い協力し合い技術が習得できるようにしましょう</p>				
単元 : 衣生活 清潔の援助 (足浴)		担当講師 : 吉田かつえ		
単元 : 清潔の援助 清潔の援助 (洗髪)		担当講師 : 藤原未央		
単元 : 清潔の援助 清潔の援助 (清拭)		担当講師 : 三上麻美		

#### 授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	衣生活	衣生活の意義について理解する  衣生活の基礎知識を理解する  衣生活のアセスメントと適切な援助を理解する	2	1. 衣生活の意義 2. 衣生活の基礎知識 1) 熱産生と熱放散 2) 被服気候 3) 衣生活のアセスメント (1) 発達段階上のニーズ (2) 衣生活の自立度 (3) 衣生活の理解度・認識 (4) 衣生活に関する習慣 3. 衣生活の援助の基礎知識 1) 寝衣交換	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
2 3		安全・安楽な寝衣交換の方法を習得する	4	4. 学内実習 1)実施項目：寝衣交換 事例：ベッド上安静の患者、筋力がなく自分で身体を動かすことができない 2)学習方法 (1) デモンストレーション (2) 事前に配布してある援助計画書に沿って実施 3)実習終了後チェックリスト、リフレクションシートの記載	デモンストレーション 学内実習
4	清潔の援助	清潔にすることの意義について理解する	2	1. 清潔援助の意義 1)清潔にすることの身体的・精神的・社会的な意味 2) 皮膚の構造と機能 3) 対象の状態に応じた援助の決定と留意点 2. 体験学習 1) 心地よい湯温の検証 2) 水とお湯の石鹸の泡立ち	体験学習
5 6 7		足浴の基礎知識を理解する 手浴・足浴のアセスメントと適切な援助を理解する 足浴の援助技術を習得する	6	1. 足浴の目的 2. 実施前のアセスメント 3. 実施上の留意点・ポイント 4. 学内演習（実施項目：足浴） 事例：80歳代 肺炎 倦怠感のある対象 1) 学習方法 (1) デモンストレーション見学 (2) 足浴の方法と根拠を学習し、グループで援助計画書を作成する (3) 担当教員から援助計画書の指導・助言を受ける (4) 立案した援助計画書を元に技術練習 (5) 技術評価 (6) リフレクション	講義 DVD 学内演習 デモンストレーション

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
8 9 10 11		洗髪の基本知識を理解する 洗髪のアセスメントと適切な援助を理解する 洗髪の援助技術を習得する	8	1. 洗髪目的 2. 実施前のアセスメント 3. 実施上の留意点・ポイント 4. 学内演習（実施項目：ケリーパッド・洗髪車による洗髪） 事例：80歳代 肺炎 倦怠感のある対象 2) 学習方法 (1) デモンストレーション見学 (2) 洗髪の方法と根拠を学習し、グループで援助計画書を作成する (3) 担当教員から援助計画書の指導・助言を受ける (4) 立案した援助計画書を元に技術練習 (5) 技術評価 (6) リフレクション	講義 DVD 学内演習 デモンストレーション
12 13 14 15		全身清拭の基本知識を理解する 全身清拭のアセスメントと適切な援助を理解する 全身清拭の援助技術を習得する	8	1. 全身清拭目的 2. 実施前のアセスメント 3. 実施上の留意点・ポイント 4. 学内演習（実施項目：全身清拭） 事例：80歳代 肺炎 倦怠感のある対象 3) 学習方法 (1) デモンストレーション見学 (2) 全身清拭の方法と根拠を学習し、グループで援助計画書を作成する (3) 担当教員から援助計画書の指導・助言を受ける (4) 立案した援助計画書を元に技術練習 (5) 技術評価 (6) リフレクション	講義 DVD 学内演習 デモンストレーション
単位修得認定試験			1	筆記試験	

## 事前課題

### (衣生活)

ヘンダーソン「看護の基本となるもの」の中の「患者が衣類を選択し、着たり脱いだりするのを助ける」の部分を読んで看護師は何をみて、どんな援助していけばよいと述べているのか、熟読し、学習ノートに整理する。

### (清潔の援助)

ヘンダーソン「8. 患者が身体を清潔に保ち、身だしなみよく、また皮膚を保護するのを助ける」を読み、次の内容について整理する。

1. 清潔の「心理学的意義」と「生理学的意義」
2. 現在の医療情勢における、対象の「清潔」の保持方法
3. 清潔の基準および看護師の役割

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
フィジカルアセスメント技術	1	30	1年後期	野口みどり 畠山 智
科目目的 : ヘルスアセスメントに必要とされる知識・技術・態度を身につける 目標 : 1. 視診、触診、打診、聴診の基本的技法を習得する 2. バイタルサインの意義、測定方法を習得し、アセスメントの視点が理解できる 3. 標準的な身体計測の方法を習得し、評価できる 4. 全身の系統別なフィジカルアセスメントの実際を学ぶ				
教科書 : 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 参考文献 : 看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術 メヂカルブックス社				
評価方法 : 筆記試験80% (野口50% 畠山30%)、小テスト20% (野口) 評価認定 : 優(80点以上)、良(70～79点以上)、可(60～69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする				
授業の進め方 各授業のはじめに前回講義範囲の小テストを行い学習状況を確認しながら授業を進めていきます。各講義では、学習したことをすぐ実施して体験学習を積みながら、学内実習につなげていきます。				
単元 : フィジカルアセスメント技術 身体各部の計測			担当講師 : 野口みどり	
単元 : バイタルサイン測定とアセスメント 学内実習			担当講師 : 畠山 智	

#### 授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	ヘルスアセスメント	ヘルスアセスメントの意義と目的が理解する	2	1.ヘルスアセスメントの意義と目的 2.ヘルスアセスメントにおける観察と重要な視点 3.問診(面接)の技術 4.健康歴聴取の目的と実際 5.セルフケア能力のアセスメント 6.情報の整理・記録・報告 *ハンダーソンの14項目 アセスメントの視点	講義
2 3 4 5 6 7	フィジカルアセスメント技術	系統別フィジカルアセスメントの実際を理解する	12	1.全体の概観 1)視診の技術 2)触診の技術 3)聴診の技術 4)打診の技術 2.全身状態・全体印象の把握 3.呼吸器系のフィジカルアセスメント 4.循環器系のフィジカルアセスメント 5.乳房・腋窩のフィジカルアセスメント 6.腹部のフィジカルアセスメント 7.筋・骨格系のフィジカルアセスメント	

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				8.神経系のフィジカルアセスメント 9.頭頸部・感覚器のフィジカルアセスメント 10.心理・社会状態のアセスメント	
8 9			4	1.フィジカルアセスメントに必要な技術 1)方法と留意点 (1)視診 (2)触診 (3)聴診 (4)打診 2)全身状態・全体印象の把握 (1)対象の全体を概観 (2)観察すべき具体的事項 ①意識状態 ②栄養状態 ③活気 ④姿勢・体位 ⑤歩行・動作 ⑥表情・顔貌・顔色 ⑦全身の清潔・整容・におい ⑧視覚・聴覚 ⑨コミュニケーション	講義 デモンストレーション
10 11	身体各部の計測の実際	身体計測上の原理・原則を理解し測定技術を習得する	4	1.各計測の目的と留意事項 1)計測の主な目的 2)計測を行うにあたっての留意点 (1)計測器具の留意点 (2)計測環境を整える (3)計測時の条件 (4)対象の安全、計測結果の活用 (5)記録・守秘義務 2.計測の実際 1)実施項目 (1)身長計測 (2)握力計測 (3)腹囲計測 (4)胸囲計測 (5)視力測定 2)学習方法 1)二人ペアとなり全項目を測定 2)測定値を記録 3)リフレクションシートの記載	講義  学内実習
12 13	バイタルサイン測定とアセスメント	バイタルサイン測定の方法とアセスメントの基礎知識を習得する	4	2.バイタルサインの観察とアセスメント 1)バイタルサインを観察する意義 2)バイタルサインの変動因子と個体差 3)バイタルサインの基礎知識と測定の実際 1)体温 2)脈拍 3)呼吸 4)血圧 5)意識	講義 デモンストレーション



科目名	単位	時間数	講義時期	講師
診療援助技術	1	30	1年後期	野口みどり 畠山 智
科目目的	診療に伴う検査・治療・処置の基本的な知識・技術・態度を学ぶ			
目標	1. 吸入・吸引・排痰の目的と方法を理解する 2. 各与薬の特徴を理解し正しい与薬方法、薬剤の管理方法を学ぶ 3. 注射の基本知識と実際を学ぶ 4. 一次救命処置 AED による除細動の使用方法を理解する			
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院			
参考文献	看護実践のための根拠がわかる 基礎看護技術 ぴあ出版			
評価方法	筆記試験 80%、小テスト 20% 野口 35%(試験 30%小テスト 1回 5%) 畠山 65%(試験 50%小テスト 3回 15%)			
評価認定	優(80点以上)、良(70～79点以上)、可(60～69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする			
授業の進め方	講義と学内実習を組み合わせる授業を進め、各技術の根拠を小テストで確認していきます 学内実習では注射法の技術を習得する授業になりますので、各自で練習を積んで技術を完成させましょう			
単元	診療・検査・処置・与薬	担当講師：野口みどり		
単元	注射・学内実習	担当講師：畠山 智		

#### 授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	診療・検査・ 処置の介助 技術	看護師の役割を理解 する	4	1. 診療の基礎知識 1) 診察における看護の役割 2) 診察時の援助 2. 検査の基礎知識 1) 検査時の看護師の役割 3. 主な検査の具体的援助方法 1) 生体検査・処置 穿刺の介助：胸腔穿刺 腰椎穿刺 2) 検体検査 静脈血採血・血糖測定 尿検査 便検査 3) 生体情報のモニタリング SpO <sub>2</sub>	講義
3	静脈血採血	静脈血採血を安全で 正確に実施する技術 を習得する	2	4. 学内実習：静脈血採血法 1) 実施項目：採血ホルダー・真空 試験管を使用した採血 2) 学習方法	学内実習 デモンストレーション

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(1)事前課題の内容を確認 (2)援助計画書を熟読し根拠・留意点を確認し手順に沿って実施する *採血シミュレーターを使用 3) リフレクション (1)技術チェックリストを用い、担当教員から個別指導・助言 (2)リフレクションシートの記載	
4	呼吸を整える技術	吸入・吸引・排痰の基礎知識を理解する	2	1.酸素吸入療法の基礎知識 2.吸引の基礎知識 1)一時的吸引 2)持続的吸引 3.排痰 1)体位ドレナージ 2)スクイズ 4.吸入の基本知識 1)ジェット式 2)超音波ブライザー	講義
5	循環を整える技術	AED の使用目的・方法を理解する  一次救命処置 AED による除細動の実施方法を習得する	2	5.学内実習：AED による除細動 1)実施項目 (1)心拍・脈拍、呼吸の確認 (2)AED パッドの装着・通電 2)学習方法 (1)AED の使用目的と方法 (2)トレーニング用 AED を使用し、援助計画書の手順に沿って実施 6.リフレクション 1)技術チェックリストを用い、個別指導・助言 2)リフレクションシートの記載	講義 デモンストレーション 学内実習
6 7	与薬の技術	各与薬の特徴を理解し正しい与薬方法、薬剤の管理方法を理解する	4	1.与薬の基礎知識 1)剤形と吸収経路 2)看護師の役割 (1)正しい与薬 6R 確認 (2)薬の管理 2.援助の基礎知識と実施方法 1)経口与薬 2)吸入 3)点眼 4)点鼻 5)経皮的与薬 6)直腸内与薬	講義 DVD 視聴 「与薬」  直腸内与

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
					薬・グリセリン浣腸：体験学習
8 9 10 11 12 13 14 15	注 射	<p>注射の基本知識と根拠・留意点を理解する</p> <p>皮下注射を安全で正確に実施する技術を習得する</p> <p>筋肉注射を安全で正確に実施する技術を習得する</p> <p>点滴静脈内注射と輸液ポンプの使用方法を習得する</p>	16	<p>1.注射の基礎知識</p> <p>1) 注射方法の種類と概要</p> <p>2) 注射器の取り扱い・注射の準備</p> <p>(1)アンプルからの吸い上げ</p> <p>(2)バイアルからの吸い上げ</p> <p>(3)輸液セット延長チューブの接続</p> <p>(4)輸液ポンプの取り扱い</p> <p>3) 各注射・点滴の根拠・留意点</p> <p>(1)注射部位の選択</p> <p>(2)実施前の評価</p> <p>(3)必要物品</p> <p>(4)患者への説明・実施方法</p> <p>(5)実施中・後の評価</p> <p>2.学内実習：注射の実施法</p> <p>1)実施項目</p> <p>(1)皮下注射</p> <p>(2)三角筋の筋肉内注射</p> <p>(3)点滴静脈内注射と輸液ポンプの使用方法</p> <p>2) 学習方法</p> <p>(1)注射用シミュレーターを使用し、援助計画書の手順に沿って実施</p> <p>3)リフレクション</p> <p>(1)技術チェックリストを用い、個別指導・助言</p> <p>(2)リフレクションシートの記載</p>	<p>講義</p> <p>DVD 視聴</p> <p>筋肉・皮下・皮内注射の講義、デモンストレーション、学内実習</p> <p>点滴静脈内注射の講義、デモンストレーション、学内実習</p> <p>臀部の筋肉内注射は体験学習</p>
単位修得認定試験			1	筆記試験・小テスト	

事前課題：1. 静脈血採血 ・ 上肢の血管・神経の走行

2. 点滴静脈内注射 ・ 点滴静脈内注射に適した静脈と誤って穿刺する危険のある動脈・神経

3. 筋肉内注射 ・ 筋肉内注射に適した部位と神経の走行

4. 皮下注射 ・ 皮下注射に適した部位と神経の走行

\*1～4は解剖の学習 ノートにスケッチすること

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
生活援助技術実践	1	30	1年後期	藤原未央
科目目的	既習の知識・技術を活用し、根拠に基づき、状況設定に応じた看護技術を倫理的態度で安全・安楽に実践できる能力を習得する			
目標	1. 演習の目的、内容、方法について理解する 2. 2つの状況設定をグループメンバーで討議し援助計画書を立案する 3. 上記の2つの状況設定の援助計画書を個人で完成させる 4. 指定された状況設定を援助計画書に沿ってひとりで実践する 5. 自己の達成レベルの確認を通して自己を評価し、今後の自己課題（自己目標）を明確にする			
教科書	基礎看護学全般			
評価方法	事前援助計画書20%、実技試験70% グループワーク、演習への取り組み姿勢10%			
評価認定	優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする			
授業の進め方	1. 既習してきた援助技術試験になります 2. 演習のオリエンテーションを受けてから、グループ学習になります 3. グループメンバーとともに2つの状況設定の援助計画書を立案し、提出は各個人になります 4. グループ学習ですので、メンバーそれぞれお互いに協力しながら学習を進めてください 5. 2つの状況設定のうち1つ状況設定の技術試験になりますので、ひとりで実践できるように、練習を重ねてください			

#### 授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	オリエンテーション	目的、内容、方法を理解する グループメンバーと援助計画書を立案する	2	1. オリエンテーション 1)内容 2)学習方法 3)グループ編成 4)評価方法 5)注意事項・留意点 6)事例提示	講義
2 3 4 5 6 7	技術練習	援助計画書を立案する 看護技術をひとりで実践する	28	1. 演習 1)実施項目 既習の生活援助技術Ⅰ～Ⅲの看護技術内容を応用し事例による 2つの状況設定を提示する	グループ学習 個人学習

授業進度と内容

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
8 9 10 11 12 13 14 15	技術練習	援助計画書を立案する 看護技術をひとりで実践する		<p>2)学習方法</p> <p>(1)グループワーク</p> <p>① 2つの状況設定の援助計画書を指定の様式に従い話し合い作成する</p> <p>②個人で作成した援助計画をもとにグループメンバー間で技術練習をする</p> <p>(2)個人ワーク</p> <p>①グループワークでの内容を活かし、個人で状況設定援助計画を作成する</p> <p>②作成した状況設定援助計画に沿ってひとりでできるように技術練習する</p> <p>(3)各担当教員からの個別指導・助言</p> <p>(4)リフレクションシートによる振り返り</p> <p>4)評価方法</p> <p>(1)実技試験は、試験当日2つの状況設定のうち、指定された1つの状況設定を個人で作成した援助計画書通りに実施し、実技評価表を基に評価を受ける</p> <p>(2)援助計画書、実技試験、態度領域を評価表に基づき評価する</p>	グループ学習 個人学習
単位修得認定試験			1	実技試験 援助計画書 態度領域	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
看護展開技術	1	30	1年 後期	藤原未央
<p>科目目的 : 対象の健康上の課題や生活上のニーズを明らかにし、課題解決に向けて看護を科学的・論理的に実践するために必要な看護過程の基礎的知識を学ぶ</p> <p>目標 : 1. 看護実践における看護過程展開の意義・目的を理解する  2. 看護過程の構成要素とそのプロセス(方法)を理解する  3. ヘンダーソン看護論の定義・概念を理解する  4. ヘンダーソン看護論に基づき対象の健康上の課題や生活上のニーズを明らかにし、課題を解決するために必要な思考過程を展開する</p>				
<p>教科書 : 系統看護学講座 専門I 基礎看護学2 基礎看護技術I 医学書院  看護の基本となるもの V.ヘンダーソン著 湯慎ます他訳 日本看護協会出版社  秋葉公子著 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践(第4版) ヌーベルヒロカワ</p> <p>参考文献 : ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程 焼山和憲 日総研  看護アセスメント力鍛え方&amp;教え方 内田陽子 日総研  わかりやすい看護過程 黒田裕子 照林社</p>				
<p>評価方法 : 筆記試験60% 看護過程演習40%</p> <p>評価認定 : 優(80点以上)、良(70~79点)、可(60~69点)、不可(60点未満)の4段階評価とする</p>				
<p>授業の進め方 : 1. 事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います  2. 予習・復習には上記の教科書・参考書に限らず、関連図書・資料を活用しましょう  3. 看護学概論・共通援助技術・生活援助技術で学習した「ヘンダーソン」に関する学習内容をポートフォリオにして活用していきます  4. 看護実践の要となる看護の思考過程をグループワークを行いながら段階的に学んでいく授業になりますので、体調を整えて、欠席しないようにしましょう  5. 演習はPBLテュートリアル・担当教員とのゼミ形式で進めていきます  6. グループ学習(協同学習)における自己の役割・責任を認識し、積極的に話し合いに参加しましょう</p>				

#### 授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1~4	看護過程の概念・構成要素・プロセス	看護過程の意義・目的を理解する 看護実践における看護過程の位置づけを理解する 看護過程と看護理論の関係性を理解する アセスメントの意義・目的を理解する 情報収集の方法を理解する	2	1.看護過程とは 1)看護過程の意義・目的 2)看護過程の基盤となる考え方 (1)問題解決過程 (2)クリティカルシンキング (3)看護理論の活用 (4)倫理的配慮と価値判断 2.看護過程の6つの構成要素 1)アセスメント (1)アセスメントの定義・目的 (2)情報収集の方法 ①アセスメントの枠組み ②情報源 ③情報収集の方法・手段	講義

回数	単 元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				④情報収集の時期 ⑤情報の種類・分類 ＜グループワーク課題＞ S/O 情報に分類してみよう	講義 グループ ワーク
		情報の分析方法を理解する	2	(3) 情報分析の方法 ①分析 ②推測 ③解釈 ④判断 ⑤選択 ⑥統合 ＜グループワーク課題＞ 情報の意味を考えてみよう	講義 グループ ワーク
		全体像（関連図）を把握する必要性と方法を理解する	2	2)全体像の把握（関連図）	講義
		看護課題を明確にする必要性と方法を理解する 優先順位決定の方法を理解する 看護計画を立案する必要性と方法を理解する 実施・評価の視点とプロセスを理解する	2	3)看護課題の明確化（看護診断） (1) 看護診断の定義・目的 (2) 看護診断ラベル（NANDA-I） (3) 看護課題の種類 ①看護が取り扱う課題 ②共同問題 ③顕在的課題と潜在的課題 ④ウェルネス型の看護課題 (4) 看護課題の表記方法 (5) 優先順位の決定方法 ＜グループワーク課題＞ 優先順位を考えてみよう 4)看護計画立案 (1) 計画立案の定義・目的 (2) 目標の設定 ①目標の表記方法 ②RUMBA の法則 (3) 看護介入方法（具体策） ①O-P、T-P、E-P ②5W1H (4) クリティカルパス 5)実施 (1) 実施の定義・目的 (2) 実施に必要な技術 (3) 実施のプロセス (4) 記録の方法 6) 評価 (1) 評価の定義・目的 (2) 評価のプロセス・視点・方法	講義 グループ ワーク

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
5～ 10	ヘンダーソン看護論に基づく看護過程の展開	ヘンダーソン看護論の主要概念を理解する 基本的看護の構成要素(14項目)について、その内容と意味を理解する 基本的欲求に影響する常在条件とは何か理解する 基本的欲求を変容させる病理的状态とは何か理解する 基本的欲求の充足・未充足を判断する3側面(体力・意思力・知識)とは何か理解する 基本的欲求の視点で一連の看護過程が展開されていることを理解する	2	1. ヘンダーソン看護論の概念枠組み 1) 人間 2) 環境 3)健康 4)看護 2. ヘンダーソンによる看護の目的 3. 基本的看護の構成要素 14項目 1) 基本的欲求の充足した状態 2) 基本的欲求の未充足状態 3) アセスメントの視点	講義
			2	4. ヘンダーソン看護論に基づく看護過程展開の実際 1) 事例紹介 大腿骨頸部骨折患者(60歳代女性) 2) 看護過程展開に必要な事前学習 3) アセスメント (1) 情報収集と情報整理 ①常在条件 ②病理的状态 ③基本的看護の構成要素(14項目) ・主観的データ(S情報) ・客観的データ(O情報) ・アセスメントガイドの活用 <グループワーク課題> データベースの記載 S/O情報の分類	講義 グループワーク
			2	(2) 情報の分析・解釈 ①充足・未充足の判断 ②未充足の原因・誘因の明確化 ・体力・意思力・意識の3側面に視点を置いたアセスメント <グループワーク課題> 未充足の原因・誘因の明確化	講義 グループワーク
			2	4) 全体像(関連図) <グループワーク課題> 関連図の作成	講義 グループワーク
			2	5) 看護課題の明確化 6) 優先順位の決定	講義
			2	7) 看護計画の立案 ①目標の設定 ・看護目標 ・期待される結果(長期・解決) ②具体策の立案	講義 グループワーク

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
11～ 15	看護過程 演習	回復期にある対象に必要な看護を看護過程の展開を通して考えることができる	10	<p>1.紙上事例による看護過程展開演習</p> <p>経過別：人工膝関節全置換術の回復期 事例：変形性膝関節症（50歳代・女性）</p> <p>1)学習方法</p> <p>(1)個人ワーク</p> <p>&lt;冬期休暇中の課題&gt;</p> <p>①学習ノート作成</p> <p>a.発達段階・発達課題</p> <p>b.疾患に関する解剖生理・病態生理</p> <p>c.変形性膝関節症・人工膝関節全置換術の看護</p> <p>d.回復期の看護</p> <p>②データベースの記載</p> <p>③S/O情報の整理</p> <p>④充足・未充足の判断とその理由</p> <p>⑤体験学習</p> <p>膝関節の可動域制限下での生活体験</p> <p>&lt;看護過程演習期間中の課題&gt;</p> <p>①グループワークに必要な事前学習の実施及び記録用紙の記載</p> <p>②グループワーク及び担当教員からの個別指導後の記録用紙の修正・追加</p> <p>(2)グループワーク</p> <p>①個人ワークの学習内容を持ち寄り、意見交換・質問・確認</p> <p>(3)各担当教員による個別指導・助言</p> <p>(4)リフレクションシートの記載</p> <p>2)評価方法</p> <p>看護過程演習評価表で評価する</p>	個人 ワーク グループ ワーク 個別指導
単位修得認定試験			1	筆記試験・看護過程演習評価表で評価する	

<事前・事後課題> その都度提示しますので期限までにグループおよび個人学習を行う